

2019年第2回IEEE Japan Council 理事会議事録(案)

日 時：2019年7月26日(金) 14:00～17:15

場 所：愛媛大学 社会共創学部 会議室 総合教育棟 2階

出席者：尾上 Chair、佐波 Vice Chair、滝嶋 Secretary、羽渕 Treasurer、
大鐘、亀山、加藤(景)、宇佐見、吉田、佐藤(代理)、杉江(俊)、梅田、野口、
大久保、椋木(代理)、梶川(嘉)、鈴木(代理)、津田、杉江(利)、眞田、白川、
重松、竹村、青山、南、西原、高村、小菅 (敬称略、順不同)

オブザーバ：百武、黒田、宇戸

事務局：加藤(麻)、 幹事会社：望月、吉原

議題：

1. 前回理事会議事録の確認 (審議) 資料 (1)
2. 会計報告および関連事項
2-1 中間会計報告 資料 (2-1)
2-2 Section 支援費の考え方 資料 (2-2)
3. 常設委員会 前回理事会以降の活動報告
3-1 Chapter Operations Committee 資料 (3-1)
3-2 Student Activities Committee 資料 (3-2)
3-3 Awards Committee 資料 (3-3)
3-4 Industry Promotion Committee 資料 (3-4)
4. Ad-Hoc 委員会 前回理事会以降の活動報告
4-1 Long Range Strategy Committee 資料 (4-1)
4-2 History Committee 資料 (4-2)
5. Affinity Group 前回理事会以降の活動報告
5-1 Women in Engineering 資料 (5-1)
6. Coordinator 前回理事会以降の活動報告
6-1 MD 資料 (6-1)
6-2 YP 資料 (6-2)
6-3 LMAG 資料 (6-3)
7. 各支部 2019年活動計画および前回理事会以降の活動報告
7-1 札幌支部 資料 (7-1)
7-2 仙台支部 資料 (7-2)
7-3 信越支部 資料 (7-3)
7-4 東京支部 資料 (7-4)
7-5 名古屋支部 資料 (7-5)

7-6 関西支部	資料 (7-6)
7-7 四国支部	資料 (7-7)
7-8 広島支部	資料 (7-8)
7-9 福岡支部	資料 (7-9)

8. その他

8-1 MGAARC 関連のトピックス	資料 (8-1)
8-2 TENCON2020 について	資料 (8-2) 当日配付
8-3 運営用情報サーバについて	資料 (8-3)
8-4 メール審議について 資料「IEEE Japan Council メール審議記録」当日配付 [参考] 支部別会員数/支部別 Society 会員数の推移 [参考] Region 10 からのメール連絡一覧 [参考] TENCON2019 における Region 10 Special Industry Track(SIT)について [参考] ISCAS2019 における Region 10 Industry Forum の報告	

議事：

0. ご挨拶

開会のご挨拶が述べられた。

1. 前回理事会議事録の確認【審議 ⇒ 承認】

資料 (1)

前回理事会 (2019 年 4 月) 議事録の確認があり、異議なく承認された。

2. 会計報告および関連事項

2-1 中間会計報告

資料 (2-1)

資料の説明があった。補足があった。今年度は期中で会計の集約をしている。活動と支払いの時間差による進捗率の乖離があり、時間差を考慮した進捗率は 42%程度である。計画されている諸活動は、現時点で計画通りに進捗しており、一方で大きな計画外支出も見込まれていない。このため、後半に向け重要案件については予備費の活用も行うこととする。オールジャパンや支部連携など広範囲に及ぶものや継続的な課題解決に向けて具体的な目的をもった案件であれば、審議を通じて実施していきたいと考えている。8月までに別途提案募集も行い、優先度をつけて検討するので、提案をお願いしたいと要請があった。

Reserve すべては JC の自由裁量になるのか、前回理事会で調べることになったと思うと質問があった。現時点では不明であることと、確認して展開すると回答があった。

2-2 Section 支援費の考え方

資料 (2-2)

資料の説明があった。資料中「正常な財政状況においては、Section Assessmentの30%程度を目途に」の「30%」は、正しくは「10%」である。資料中「なお、このSection支援

費は、為替差益などによりJapan Councilの経費に若干の余裕が見込まれるために設けるものであり、事情が変化すれば随時見直すこととする。」に注意喚起があった。支部活性化に向け、資料中の例に限らず11月1日頃までに申請をお願いするとの依頼があった。Section 支援費申請書の第二項に「section支援費の導入により見込まれる効果」を、またSection 支援費実施報告兼会計報告の第一項に「Section 支援費活用による目的の達成度や効果」を記載するよう様式変更があった。

新規企画を年内に実施するために予算が必要な場合は申請すれば認められるのか、年に3回しかない理事会だけの審議機会ではタイムリーな実施が難しいと思っている、臨機応変な対応をお願いしたいと質問があった。新規企画の場合は臨時的に提出頂くことになり、緊急的な申請にも対応できるようになっていると説明があった。さらに、資料に記載の通り支部との折半なので、期中に支部側の折半分を捻出する場合は少ないとの前提で、第3回理事会を申請締切りとしていると、補足説明があった。

緊急の場合などでも前払いは対応できないので注意して欲しい、本改定案は2020年案件から対象と補足説明があった。

今回の改定差分は折半の明記だけかと質問があり、支部とJCとの折半であることを明文化した点と、申請書と報告書の両方に効果を記載することを記載した点であると回答があった。折半の具体的な数値については、従来は「支援費の考え方」には記載しておらず、10月末に依頼する次年度計画立案時に数字を記載していたが、今回、ここに50%と明記したと補足説明があった。

3. 常設委員会 前回理事会以降の活動報告

3-1 Chapter Operations Committee

資料 (3-1)

資料の代読があった。

資料中の「事故等のリスクについては、IEEE JC ならびに COC は責任を負わない」について、「IEEE 全体の考え方は、IEEE として何らかの形で事故発生に備えた妥当な対応を事前に行っておく（保険を掛けておくとか）となっているのではと思われる」との発言があり（*）、前回の理事会でも議論があり、メンバーの本務所属組織での規則なども考慮して、積極的に利用を促進させるまでのコンセンサスが得られていないため、JC ではまずは必要性の高いケースから少しずつ始めていくことになったと説明があった。

ボランティアが国外に行く場合には IEEE がグローバルアクシデントメディカルプランで保証するが、国内については記載がないと説明があった。

今回の議論の内容を COC Chair に伝えると発言があった。

* 【参考】理事会開催後の補足コメント

- IEEE では、IEEE が認めたボランティアの活動の中での自家用車やレンタカーの利用については、その中で止む無く発生する事故等に備えて、妥当と思われる補償（事故の場合に発生する費用の補償、等）について IEEE としてのルールや措

置（IEEE、もしくは利用者が保険に加入しておく、等）を定めていると理解している。

- 一方、現在 COC で検討が進められているルールでは、自家用車、もしくはレンタカーの使用を認める一つの条件として、「事故等のリスクについては、IEEE JC ならびに COC は責任を負わない」が検討されていると理解したが、この条件は IEEE が定めているガイドラインと若干整合しないのではと思われた。
- 自家用車やレンタカーの利用は、事故が発生した場合の対応が IEEE 側も利用者側も大変なので極力避けることが良いのではと感じており、JC や COC としては、妥当な理由での利用時の事故発生に備えた対応を妥当なレベルで行っておく責任があるのではないか。具体的には、例えば IEEE 全体の考え方（ガイドライン）に基づき、自家用車やレンタカー利用中の事故発生時に備えた妥当な補償の手段（IEEE、若しくは利用者が契約する保険等）についてのガイドライン（ルール）を定め、そのルールに従うことを利用許容の条件とすることが良いのではと感じている。

<https://www.ieee.org/content/dam/ieee-org/ieee/web/org/about/ieee-business-auto-liability-and-physical-damage-insurance-coverage-highlights-2018.pdf>

3-2 Student Activities Committee

資料（3-2）

資料の説明があった。広島 Section Student Branch (SSB)、信越 SSB が Probation リストに載った。事務局にて確認したが人数などの該当データが見つからない。信越支部は SB を設立したばかりで、MGA が正しくカウントをしていないことが疑われる。Region10 SAC Chair と相談しながら確認を進める。福井大学と青山学院大学は 10 名を下回っている、関西大学、中央大学、兵庫県立大学が 10 名前後である。

また、信越支部と福岡支部の SAC Chair はリストに載っていないと、R10 SAC Chair から指摘を受けた。信越支部には伝達済みであるが、福岡支部においても Officer 登録の内容を確認いただきたい。また、Skype での SAC 会合について、四国支部と福岡支部は連絡が取れていない。担当者変更の可能性があるので、担当者を確認し、教えて欲しいと依頼があった。

IEEE では 10 周年、25 周年、50 周年にプラークを贈呈することが多い。静岡大は昨年 50 周年を迎えたが対応しているかと質問があり、未対応なので対応すると回答があった。

設立してもよさそうな大学で設立されていない場合が相当あると聞いている、SAC 全体として奨励活動をしているかと質問があり、支部 SAC の働きかけが重要で、前回 skype ミーティングでも連絡した、JC SAC も設立に必要な資料や報告書作成のノウハウの提供など支援をしていると回答があった。

旅費支援を定額制とした背景と、超過分は自己負担かの質問があり、大学から会場まで安全で妥当な経路を設定しているので、上限額は越えない、しかしホテルの予約が遅くな

り高額になるケース、異なる大学からの参加で別々にシングルユースの宿泊になったケースなど、定額支援の課題もあり改善すると回答があった。

安全な経路について疑わしい事案(インド深夜便など)には歯止めをかけていた、事後に分かることもあり、この点問題ないかと質問があり、常識的な範囲で運用することを期待していると回答があった。

3-3 Awards Committee

資料 (3-3)

資料の代読があった。資料中の 2. 2020 TFA 受賞者の「2019 年の」は「2019 年に発表となった 2020 年」に、「4 件、4 名」は「5 件、5 名」に訂正、また資料の 42 ページ冒頭「2019 年の受賞者」は「2020 年の受賞者」に訂正された。

資料中の本部委員「3 名減、3 名増」は本部委員のことか、本部委員の場合、本資料と昨年同期の資料を比較すると、2019 年の新規委員は 19 名、昨年のみ記載のある委員は 25 名であり、6 名減少している可能性がある」と指摘があり、JC Awards Committee に報告し確認すると回答があった。

3-4 Industry Promotion Committee

資料 (3-4)

資料の説明があった。

TENCON2019 の Industry Track でケイデンスコーポレート Vice President が講演予定である。Google や Amazon にもアプローチし、承諾される可能性がある」と発言があった。

インド開催の Special Industry Track(SIP)ばかりに日本から 6 名程度も参加する意義があるのか疑問であると発言があった。Region10 にはフラグシップ会議が 3 つ(TENCON、TENSYP、HTC)あり、TENCON は昨年の済州島開催でも 5~600 名の参加があるなど規模が大きいと、数名での参加は妥当と思われる」と発言があった。特に TENCON では日産や大日本印刷などの日本企業の現地法人が積極的に参加していること、11 月の HTC の Industry Forum も GreenTech をテーマに現地が中心に進めているとの情報があつた。また、Student Fund もあり開催地を中心に参加者が集まっているとの紹介があつた。

一方、Industrial Track だけを目指して行くのは若干疑問である、派遣元に意義を再確認してもらった方がよいとの意見が、論文発表などの明確なミッションがあれば多くの参加があつてもよいが、セッションに聴講参加するだけでは効果が疑問であるとの意見が述べられた。学生 2 名は TENCON での論文発表を予定していると、説明があつた。

どのような活動をするのかの情報共有や、場合によっては役割分担の可能性など、異なる派遣元からの参加者間で事前に協議して、参加の効果を高めるよう調整して欲しいと、派遣を予定している Committee や支部に対して要請があつた。

4. Ad-Hoc 委員会 前回理事会以降の活動報告

4-1 Long Range Strategy Committee

資料 (4-1)

資料の説明があった。2020年 R10 Annual Meeting は3月7日～8日ホーチミンにて開催と補足説明があった。

4-2 History Committee

資料 (4-2)

資料の説明があった。

5. Affinity Group 前回理事会以降の活動報告

5-1 Women in Engineering

資料 (5-1)

資料の代読があった。

「託児サービス費用は ILS 黒字分からの補填」について、ILS は昨年会計のため、黒字分は JC の利益として一度返却するなどの処理がよいのでは、と指摘があった。これに対して、ILS 黒字分は返却先がないため、WIE で保管、活用していると説明があった。

WIE2019 は JC のイベントなので JC の利益として返すのがよい、主催を名乗る以上は赤字の場合も財務責任を持つ、黒字をため込むのは良くないと発言があった。また、主催がどこなのかで対処を決める必要がある、と発言があった。これに対して、これまでに利益を生じたことが無かったことが背景にあると思われるので、今後はしかるべき会計処理をすると発言があった。

ファイナンシャル スポンサーは JC かと質問があり (*)、ファイナンシャル スポンサーは基本 JC であること、また、JC の他に WIE のファンド、企業スポンサーやレジストレーションによる収入があったと回答があった。

ILS の会計報告は理事会に上がっていない状況である、運営上は改善の余地があると発言があった。また、経緯や状況分析の上、確定版の会計報告とともに対処について別途説明を行うこととすると発言があった。

* 【参考】理事会開催後の補足コメント

- 昨年の ILS は、勿論 JC WIE のメンバーが中心となり推進されたが、基本的には JC がスポンサーとなった JC のイベントの位置づけであり、JC WIE のメンバーだけでなく、JC や国内各セクション、及びその関連機関の多大な協力の結果成功した（黒字が出たことを含む）と考えられる。従って、その黒字についても、JC WIE の黒字ではなく、JC の黒字として位置付けてまず 2018 年の決算を行うことが妥当と思われる。
- 2019 年の JC WIE の活動については、2018 年の ILS の成功も踏まえ、JC として活動を強化することとし、その一環として「託児サービス付き WIE2019」の実施をサポートする（必要に応じて予算を手当てする）とすることで JC 理事会の承認を得ることが良いと思われる。

6. Coordinator 前回理事会以降の活動報告

6-1 MD

資料 (6-1)

活動報告・資料提出はなく、現状や今後の予定を確認して、別途報告することとなった。

6-2 YP

資料 (6-2)

資料の説明があった。

IEEE のボランティア活動においては、妥当と思われる滞在費は IEEE が負担すると考えているが、滞在費を自費で払うとはどういう意味か確認したい、TENCON SIT への派遣の目的は何か、JC SYWL は仙台ローカルでなく JC YP が主導するという変更があったのか、と質問があった。滞在費は食事を意味しており、自己負担とすること、TENCON 派遣によって狙う効果は人脈形成であること、SYWL は検討中である(※)、と回答があった。

※ SYWL に関しては、「7-2 仙台支部」の活動に関する議論において、YP が主導することが確認された。

自身も TENCON に参加しそれが人脈形成に役立ったこと、会議状況を事前に先輩から引き継いだ上で参加することで経験蓄積などの効果が高いと思っていることなどから、ご支援を頂きたいと補足説明があった。

以上の質疑応答を経て、増額が承認された。

6-3 LMAG

資料 (6-3)

資料の説明があった。

7. 各支部 2019 年活動計画および前回理事会以降の活動報告

7-1 札幌支部

資料 (7-1)

資料に基づき、活動状況の説明があった。会員数増強施策などについて、別途結果等の共有の依頼があった。

7-2 仙台支部

資料 (7-2)

資料の説明があった。

現地メンバーはどのように決まりそうかと質問があり、北川先生が中心になり、WIE を中軸に企画依頼をしていると回答があった。

「Japan」SYWL となっているがこれは日本全体からの参加者を考えているのか、日本全体の場合に集客の見込みはあるのか、と質問があった。日本全体からの参加者を考えている、支部に閉じたイベントではないので可能な範囲で多数ご参加をお願いしたいと回答があった。特定支部のイベントではなく、Japan として実施する、WIE は予算計上していると発言があった。

Japan SYWL の組織委員会はどのように組織されているのかと質問があり、自身がリーダーとしてやっていきたいと回答があった。YP に関して若手が興味を持つことをやればよいが継続性を維持するのが難しい、無理の無い計画で設立をお願いしたいと発言があり、指摘の通りで、立案時に確認していると回答があった。

7-3 信越支部 資料 (7-3)
資料に基づき、活動状況の説明があった。

7-4 東京支部 資料 (7-4)
資料に基づき、活動状況の説明があった。

7-5 名古屋支部 資料 (7-5)
資料に基づき、活動状況の説明があった。名古屋支部会計に計上している 4 件の Section 支援費について、実施したものは所定の報告手続きを進めていただき、予定実施時期を過ぎているものは状況の報告を行ってほしいこと、また JC に対して未計上の Section 支援費については、早期の申請をお願いすることが述べられた。

7-6 関西支部 資料 (7-6)
資料に基づき、活動状況の説明があった。
「representative of chapters」の表現を抹消するとはどういう意味か、と質問があった。長年該当者がいなかった、Section でも記載しているところとないところがあり、実態に合わせたと回答があった。MGA オペレーションズマニュアルで必要とされている、Section と Chapter のコミュニケーションができればよいと発言があった。常設委員会として COC が設置されている。

Section 支援費に関わるものは、活動予定としても明記して欲しいと要請があった。

7-7 四国支部 資料 (7-7)
資料に基づき、活動状況の説明があった。
年内に講演会を予定しているかと質問があり、各大学 1~2 件を予定と回答があった。

7-8 広島支部 資料 (7-8)
資料に基づき、活動状況の説明があった。
HISS は計画通りかと質問があり、その通りと回答があった。

7-9 福岡支部 資料 (7-9)
資料に基づき、活動状況の説明があった。

8. その他

8-1 MGAARC 関連のトピックス

資料 (8-1)

資料に基づき、活動状況の説明があった。

8-2 TENCON2020 について

資料 (8-2) 当日配付

当日配布資料の説明があった。文書中の記載「HISTELCON と TENCON2020 は」は、「HISTELCON と同様に TENCON2020 は」と訂正された。

R10 と支部の間の Agreement 文案が配布・説明された。本文書の改訂版を作成後、各支部に展開することとなった。

各支部で資料を確認頂き、質問等は随時受けると、発言があった。

TENCON はフラグシップ会議であるが、韓国開催の時は国として産業界としてサポートしている感がある、日本はどのように位置付けているのかを教えて欲しいと質問があった。韓国と同様のサポートを企業から頂くのは難しいと感じている、最近では採録も厳しくなっている、韓国の時は4割程度であった、会議テーマはSDGsで、これに関連した企画はできるが韓国開催の時ほどではないと感じている、と発言があった。

8-3 運営用情報サーバについて

資料 (8-3)

資料説明があった。

8-4 メール審議について

資料「IEEE Japan Councilメール審議記録」当日配付

資料を確認するよう依頼があった。

[参考] Region 10からのメール連絡一覧について

No.72 7月11日 15:19 "[Announcement] Region 10 Council / Section / Subsection Survey (by 30 September 2019)"、および

No. 79 7月24日 15:46 "Message from IEEE Region 10 Director - Section Incentive Scheme" の2件は、各支部において再確認を行うよう、注意喚起が行われた。

* Region 10からのメールについては、Garoon上にて適宜更新版を公開

[参考] TENCON2019 におけるRegion 10 Special Industry Track(SIT)について

[参考] ISCAS2019 におけるRegion 10 Industry Forum の報告

上記二つの参考資料の説明があった。

ISCAS2019での開催に関する所要時間と参加者について質問があり、2時間半程度で日本の参加者が多かったこと、海外の参加者もいたことの回答があった。

第3回理事会の予定(12月4日東京)が周知された。

理事会終了後、四国支部の紹介と活動状況等の報告があった。

以上